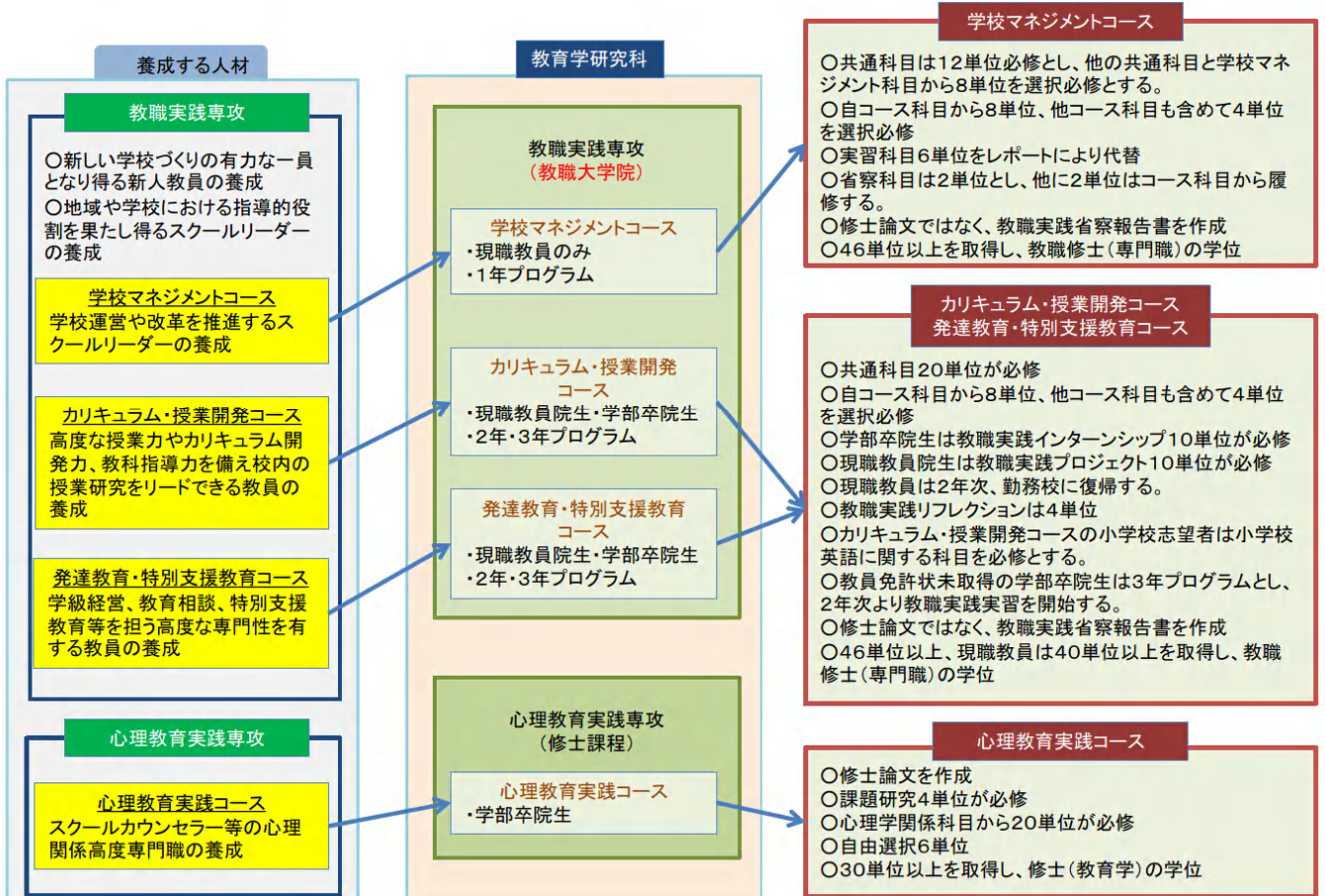


教職実践専攻（教職大学院）紹介

【特徴】

- 理論と実践の往還を通じて、学校現場の課題を解決し、実践知の継承と創造に取り組む意欲と高度な力量を有する初等中等教員を養成します。
- 秋田の高い学力を中心的に支えてきた経験豊かな実務家教員と、質の高い教員を養成しつつ秋田を含め国内外の教育実践を研究・支援してきた研究者教員が協同して指導にあたります。
- 秋田県・市町村教育委員会と連携して、県内の種々の研修・フォーラム・会議等に参加して、教育専門監、コアティーチャー、指導主事の優れた実践に触れることができます。
- 職員室を模した院生室単位で、現職院生は学卒院生のメンターとしての役割を果たし、学卒院生は日常的に現職院生の実践知に触れることができます。
- 週1日の実習を通じて、現職院生は連携協力校等の学校・授業改善の取り組みに関与し、学卒院生は附属学校園と連携協力校で実践力の向上と自己の研究課題に取り組みます。
- 独立行政法人教職員支援機構の講習や、県内外への研究旅行などを通じて、教育先進地、津波被災地等の状況を知り、他の教職大学院との交流ができます。

養成する人材と履修要件



■秋田大学教職大学院を構成する「3つのコース」

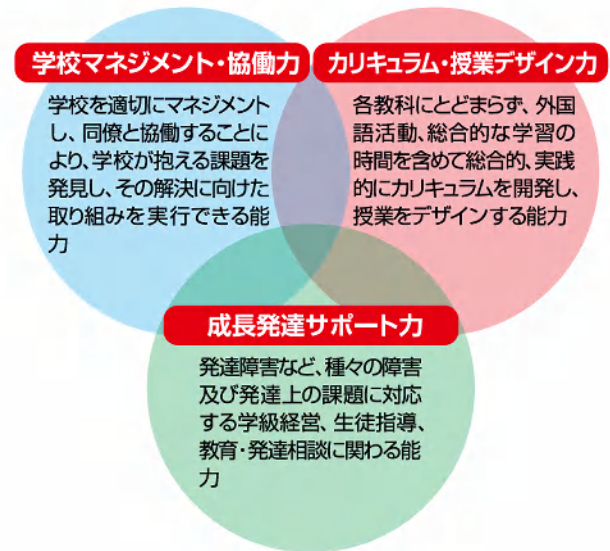
学校マネジメントコース	学校経営や改革を推進するため、組織マネジメント力に優れたスクールリーダーを養成します。 【現職教員対象】
カリキュラム・授業開発コース	高度な授業力やカリキュラム開発力、教科指導力を備え、校内外の授業研究をリードできる教員を養成します。 【学部卒業者、現職教員対象】
発達教育・特別支援教育コース	学級経営、教育相談、特別支援教育等を担う高度な専門性を有する教員を養成します。 【学部卒業者、現職教員対象】

■アドミッション・ポリシー

本専攻では、次のような人材を求めています。

1. 現職教員院生は、研究主任、教務主任、主幹教諭などカリキュラム・授業開発、発達教育・特別支援教育の中核として働くスクールリーダーや指導主事になり得る人と、教頭、副校長、校長、教育委員会幹部など学校改革や学校マネジメントの中核となり得る人
2. 学部卒院生は、学校現場において即戦力となる実践的な指導力を身につけ、授業開発と指導・支援の中核となり得る人職業人の養成を目的とします。

■秋田大学教職大学院で育成する「3つの力」



秋田県教育委員会との連携

義務教育課

(指導班)

- ① 全県指導主事等連絡協議会
- ② スクールカウンセラー配置事業連絡協議会
- ③ 心の教室相談員連絡協議会
- ④ わか杉県政体験
- ⑤ キャリア教育研究協議会

(学力向上推進班)

- ① 学力向上フォーラム
- ② CT連絡協議会
- ③ CT養成研修会(国語、算・数、理科)
北、中央、南で開催

特別支援教育課

- ① 特別支援学校教務主任連絡協議会
- ② 特別支援学校生徒指導担当者連絡協議会
- ③ 特別支援学校のセンター的機能推進協議会
- ④ 特別支援学校研究主任連絡協議会
- ⑤ 上級特別支援教育コーディネーター養成研修会
- ⑥ 教育支援地区別連絡協議会
- ⑦ 全県指導主事等連絡協議会

教育庁各課訪問

総務課・義務教育課
高校教育課・特別支援教育課

○教職大学院入学者等への【優遇措置】

教職大学院入学予定者及び終了予定者には、「教員採用試験」において大学推薦、特別選考、合格者採用延期等の優遇措置があります。各県によって内容は異なりますが、例えば秋田県では教職大学院特別選考の優遇措置が以下のようになっています。

- ・大学院2年次において（修了後は2年間）、第一次選考試験の「総合教養」が免除になります。
- ・大学進学予定の合格者は、希望により2年間採用を延期できます。

○教職チャレンジプログラム

教職大学院での研究・学修を続けながら、教育文化学部の授業を履修することにより、原則3年間で教員免許状（原則1職種で、中学校及び高等学校の免許状では1教科）の取得を可能とする制度があります（学部の授業料は無料で教員免許状の取得が可能です）。なお、大学院で所定の単位を修得することにより、専修免許状の取得もできます。

○教員養成6年一貫プログラム

教育文化学部学校教育課程の学生で、本教職大学院に進学を希望する者は、選考を経て、4年次に教職大学院の授業を先取りして受講することができます。履修した科目は、入学後に事前取得した単位として認定されます。入学後、余裕を持って授業を履修できるとともに、空いた時間に学校での実習やボランティアなどを入れて、教育実践力のさらなる向上を図ることも可能です。

《教職実践専攻》専任教員の紹介

平成30年6月1日現在

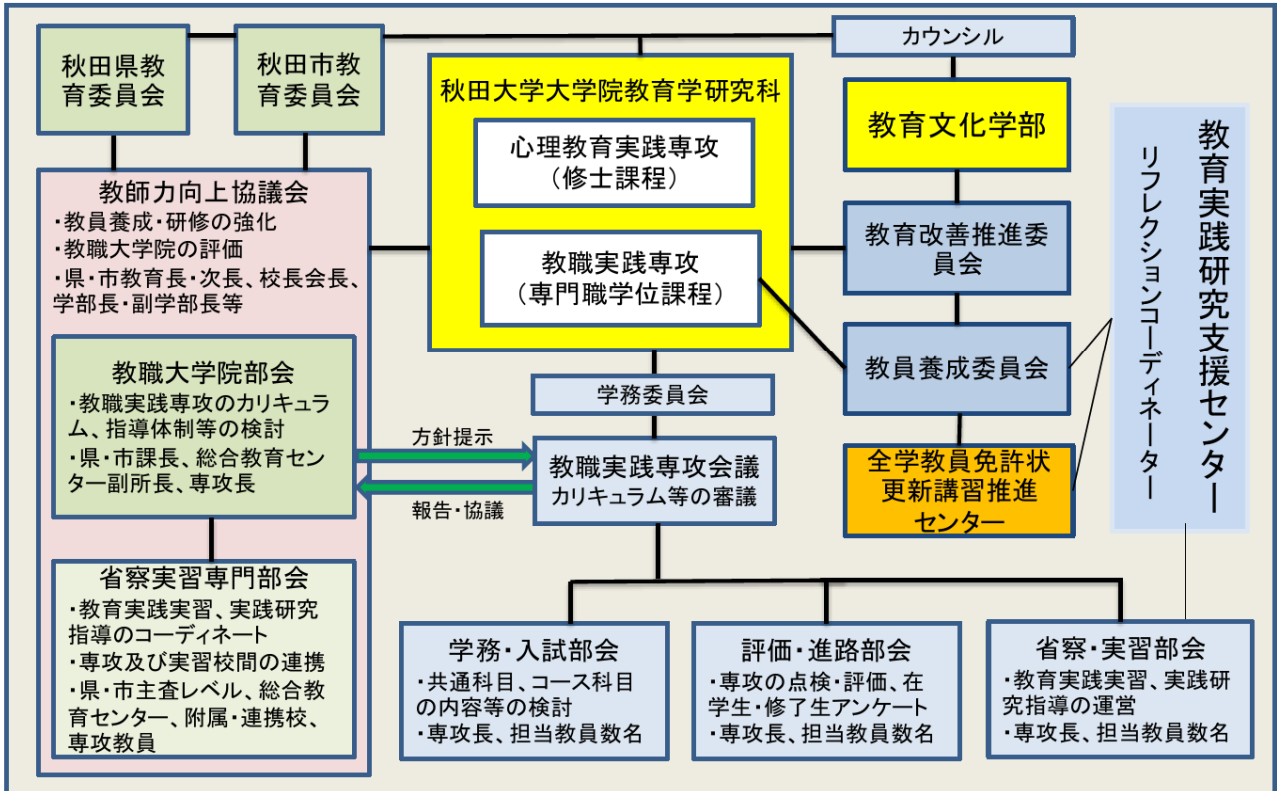
氏名	職名	専門分野/前職	主な担当科目
佐藤 修司	教授 研究者教員	教育行政学・法学	学校経営戦略の分析と策定
原 義彦	教授 研究者教員	社会教育学・生涯学習学	秋田の生涯学習の理論と実践
阿部 昇	教授 研究者教員	国語科教育・教科教育学	秋田の授業力の継承と発展
長瀬 逢也	教授 研究者教員	美術教育・教科教育学	教科教育実践の理論と展開
林 信太郎	教授 研究者教員	地質学・岩石学	ふるさと秋田の教育資源とカリキュラム開発
武田 篤	教授 研究者教員	特別支援教育・言語病理学	個のニーズに応じたカリキュラムの編成
藤井 慶博	教授 研究者教員	特別支援教育学	インクルーシブの理念と特別支援の推進
鎌田 信	教授 実務家教員	前秋田県教育次長	地域教育行財政の現状と課題
田仲 誠祐	教授 実務家教員	元秋田県教育庁義務教育課副主幹	教育実践力の向上と秋田型協同研究システム
古内 一樹	特別教授 実務家教員	元秋田県総合教育センター所長	学校教育の現代的課題
廣嶋 徹	特別教授 実務家教員	元秋田県教育庁中央教育事務所長	学校危機管理の現状と課題
奥 瑞生	特別教授 実務家教員	前秋田市教育次長	小学校英語の理論と実践
三浦 亨	准教授 実務家教員	前秋田県教育庁義務教育課副主幹	現代教育思想と学びの諸相
工藤 正孝	客員教授 実務家教員	元秋田県立高等学校長	教員の服務管理と人事考課
高橋 省子	客員准教授 実務家教員	秋田大学教育文化学部附属特別支援学校主幹	特別支援教育の教育課程の実施と評価

※この他、教育文化学部所属の教員80名余が、兼任教員として授業を開講します。

○専攻長 佐藤 学(教授、研究者教員、兼担)

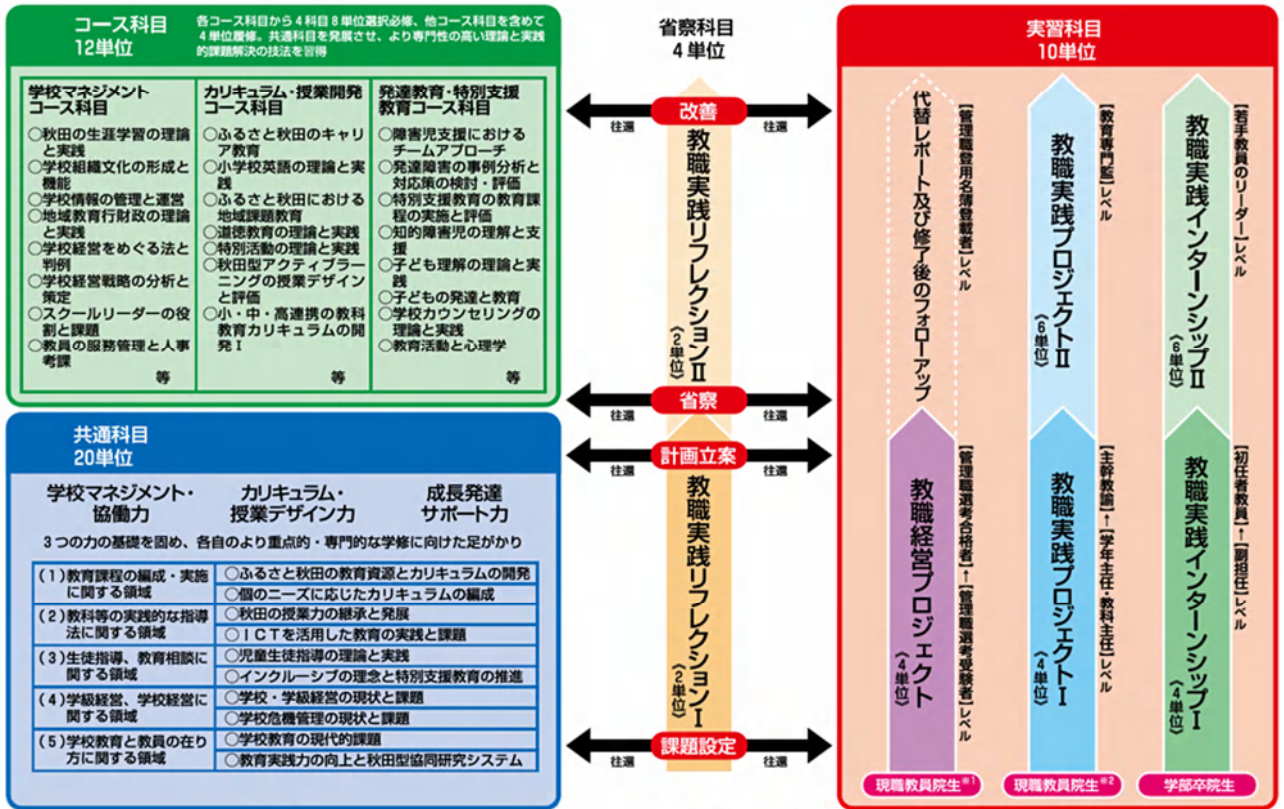


教職実践専攻の管理組織



秋田大学教職大学院のカリキュラム

秋田大学教職大学院では、これまで秋田県で築かれてきた教育の実践知を継承するとともに、これからの教育のあるべき姿の創造を目指し、「実践的課題解決」型のカリキュラムを設定しています。



理論

実践

*1 学校マネジメントコースの現職教員院生
*2 学校マネジメントコース以外の現職教員院生

授業紹介

「学校・学級経営の現状と課題」

学校・学級経営の理論と歴史を学ぶとともに、学校組織マネジメントに関する分析手法、研修手法を学ぶことにより、実際の学校現場で活用できるようになることを目指します。教職員間、子ども、保護者、地域との関係づくりを、外部講師や学校訪問などからも学びます。写真は秋田県の義務教育課長の講話の様子です。



「秋田の授業力の継承と発展」

優れた事例を基に秋田の授業力について理解する、それを踏まえチームで授業づくりを進める、模擬授業を提案しその改善に取り組む、の3つのステップで構成されます。いくつかの教科の班単位で教材研究と授業提案を行います。各班とも授業の外に自主ゼミを実施するなど、秋田型授業研究を実践的に体験できます。写真は模擬授業の様子です。

「インクルーシブの理念と特別支援教育の推進」

障害のある子どもと障害のない子どもが共に学ぶインクルーシブ教育システム構築のため、障害のある子どもの教育相談や就学支援の在り方、障害者差別解消法施行にともなう合理的配慮の提供、交流及び共同学習と障害理解授業の進め方、授業のユニバーサルデザインなどについて学びを深めます。写真はボッチャの体験活動です。



「研究旅行」

2016・17年度は2泊3日で東日本大震災の被災地の学校等を訪問するとともに、岩手大学や宮城教育大学の教職大学院の教員・院生との交流を行いました。それぞれが様々な思いを抱き、震災について考えさせられる時間となりました。また、宮城教育大学との交流では、それぞれの大学院のカリキュラムや授業内容、実習についての情報を交換し、教育のあり方を共に考えました。写真は大川小学校跡と宮城教育大学教職大学院との交流会です。



実習紹介

- 年間を通じ、1年次20日程度、2年次30日程度、原則火曜日で、一部集中実施します。
- 学校マネジメントコースの院生は1年次のみ勤務校または秋田市内協力校で実習を行います。学校経営上の課題を明らかにし、その課題解決のための方策を明らかにするため、各種調査や校内研修等に取り組みます。
- 現職院生（学校マネジメントコースを除く）は秋田市内協力校（1年目）、勤務校（2年目）で実習を行い、授業・生徒指導・特別支援上の課題を明らかにし、その課題解決のための方策を明らかにするため、研究授業、校内研修等に取り組みます。
- 学卒院生は附属学校（1年目）、秋田市内協力校（2年目）で実習を行い、全般的な教育実践力の基礎を形成するとともに、授業・生徒指導・特別支援上のテーマを持って実践に取り組みます。

各コースにおける学校実習の目的・内容

- 1年次 理論と実践の往還を通して研究課題を明らかにする。
効果的な指導の在り方について仮説を設ける。
- 2年次 学校実習を通して検証・改善を行う。
課題解決に向けた提言について啓発資料をつくる。

	マネジメントコース	カリキュラム・授業開発コース 発達教育・特別支援教育コース	
	教職経営プロジェクト	教職実践プロジェクト	教職実践インターンシップ
目的	○高度な学校改革力の伸長 経営分析、危機管理 様々な企画・運営	○高度な授業改善力の伸長 ○高度な発達支援力の伸長	○授業改善力の伸長 ○発達支援力の伸長
内容・方法	【1年次】20日 ・附属四校園実習 幼小中特の連携推進 ・教育行政実習 県教委、市教委主催の 会議、議会視察 ・関連機関実習 司法、警察、厚生労働省 所管の施設等への訪問等	【1年次】公立学校20日 ・全県指導主事会議 ・メンター実習 ・課題研究実習 【2年次】勤務校30日 ・教師力充実実習 ・課題研究実習 ・秋田型共同研究実習	【1年次】附属学校20日 ・附属四校園実習 ・教師力錬成実習 ・課題研究実習 【2年次】公立学校30日 ・教師力向上実習 ・課題研究実習

実習体験報告

「教職経営プロジェクト」

鏡 基倫 学校マネジメントコース1年次（現職）

自己の設定した課題を解決し、自己の研修を深めるために、大学外で活動をしてきました。前期は、子どもの発達に応じた経営の在り方を探るために秋田大学附属の四校園を訪問しました。後期は、研究課題の解決に向け、現任校での講話やアンケート調査の実施をしました。また、県外の研究先進校を訪問し、校長や研究主任からお話をうかがったり、授業を参観したりし、研究を深めることができました。



「教職実践プロジェクト」

鈴木 聡 カリキュラム・授業開発コース1年次（現職）

実習校の研究推進・生徒指導・ふるさと教育・キャリア教育など多岐に渡り、教育活動に取り組む子どもの姿やそれを支える教職員の手立てから、学校経営について深く学びました。配属となった4年生では、研究テーマである「小学校における地域素材を活用した社会科学習の在り方」に基づき「わたしたちの秋田県」において、特に県内の産業の分布に焦点を当てた授業開発・検証授業を行い、理論と実践の往還に挑戦しました。



「教職実践インターンシップ」

高橋 渉 発達教育・特別支援教育コース2年次（学卒）

知的障害教育における教科（特に国語・算数数学）指導を研究テーマにしています。自分の研究テーマに基づき、副校長や教頭はじめ主任級の教員が当たってくださり、教科指導の歴史的経緯から新学習指導要領における教科指導の実践まで、教育現場を俯瞰した専門性の高いリフレクションが毎週行われます。これまで課題とされていた知的障害教育の教科指導に対し、改善策の提案ができそうです。



院生生活の紹介

泉 拓行 学校マネジメントコース1年次（現職）

教職大学院は、秋田の学力を支えてこられた素晴らしい実務家・研究者の先生方による講義、様々な経験のある現職及び学卒の院生同士の協同の学び、多様な研修の機会等々非常に恵まれた環境であると感じています。また、学校組織が教育目標の具現化に向けて自律的に機能するように組織やカリキュラムをどうマネジメントしていくべきかということ自らの課題と照らし合わせて学べることも貴重な機会です。



岸 陽弘 カリキュラム・授業開発コース2年次（学卒）

今年で大学院に入学して2年が経ちました。昨年は授業を通して、様々な理論を学ぶことができました。今年には教職実践インターンシップで、授業実践や生徒指導の実践の機会を多く頂いています。インターンシップで感じたことを、同じ学部卒院生の仲間や現職の先生方と共有できること、そして大学院の先生方とリフレクションできることが、この大学院の強みだと感じています。即戦力となることができるように、尽力したいと思います。

今野菜穂子 発達教育・特別支援教育コース1年次（現職）

様々な校種や年代の院生、教授陣と自由に学び合うことができる素晴らしい環境です。教育というものを今一度理論的に捉えたり、特別支援教育の位置づけや状況を実感したりすることができました。またこれまでの教員生活の中で自分がやってきたこと、これからやるべきことを見つめ直すことができました。積極的に学ぶ姿勢を忘れずに、実践力を身につけていきたいと思っています。

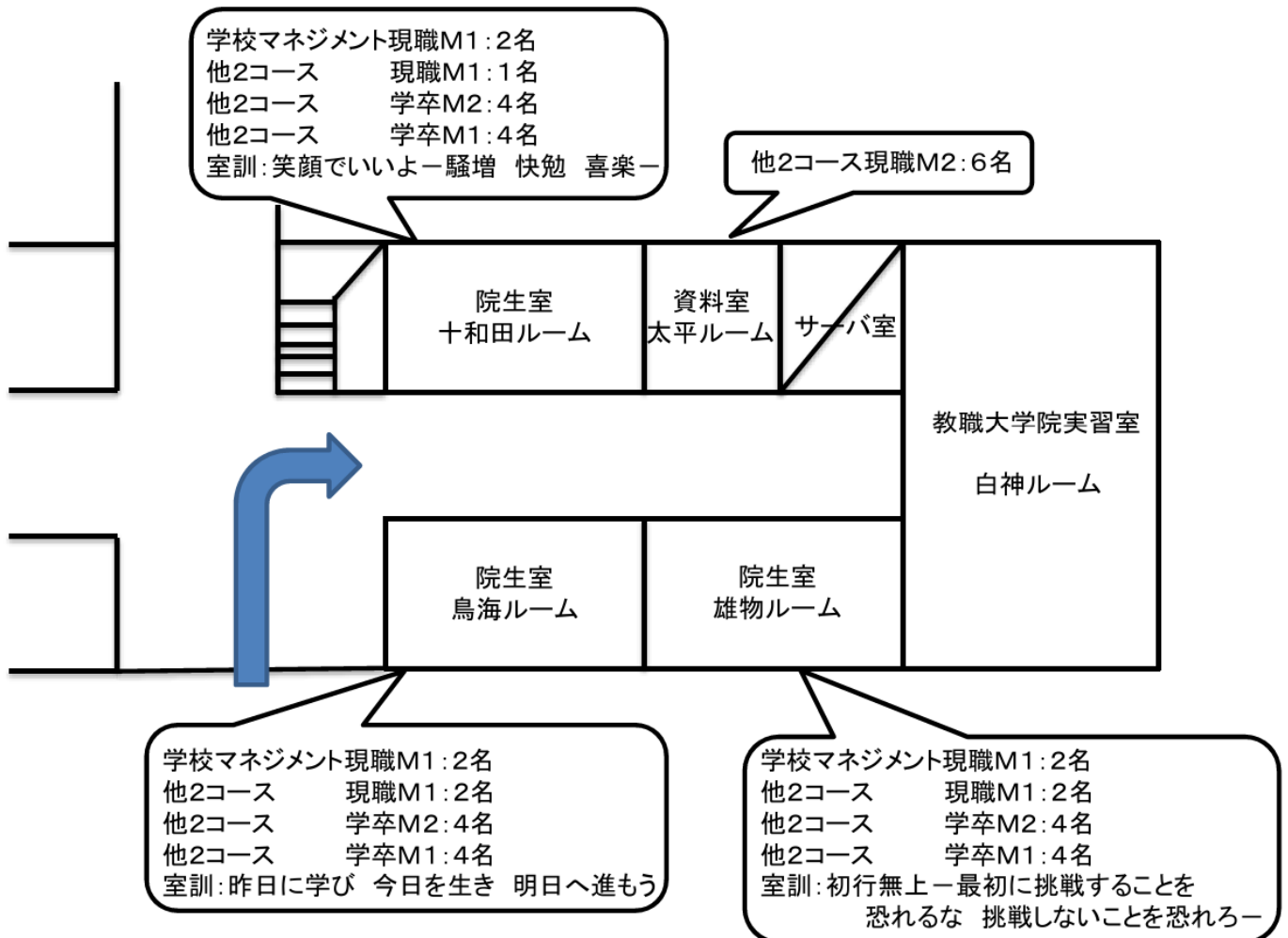


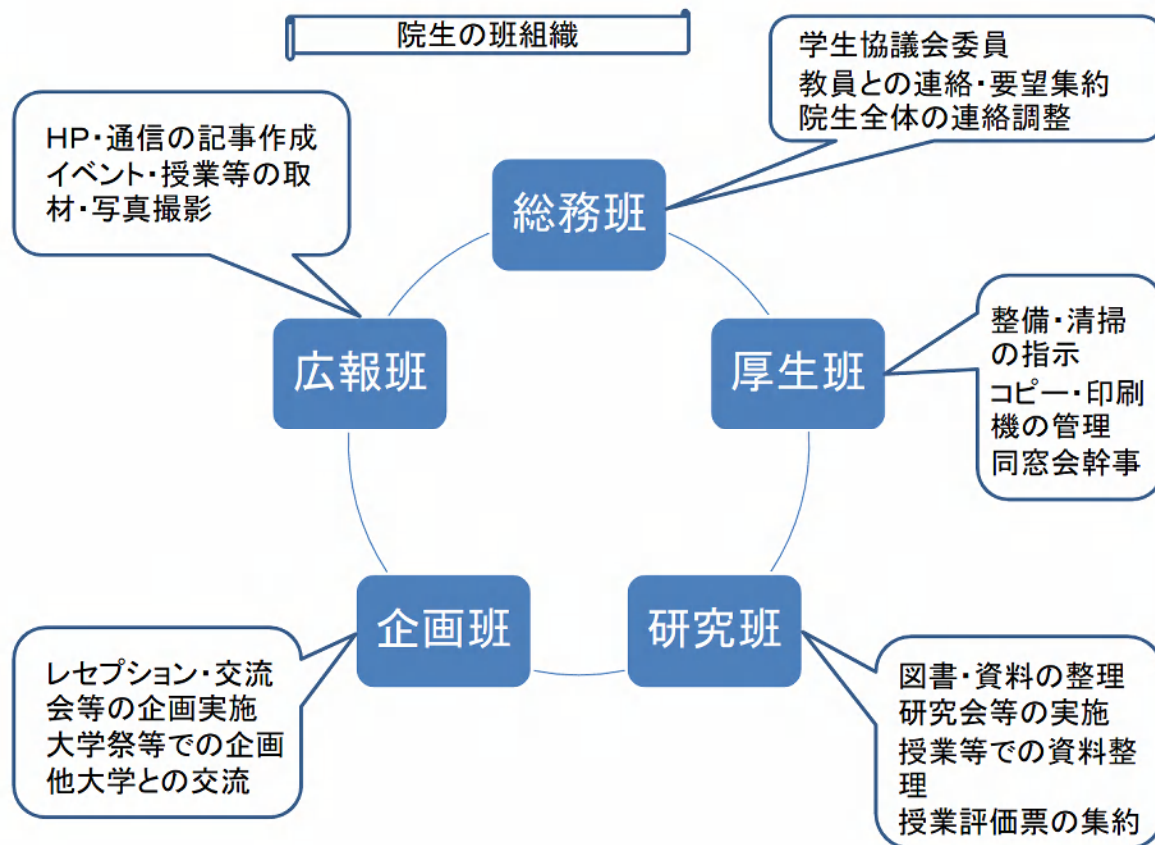
院生室紹介

現在、院生の部屋は現職院生と学部卒の1, 2年の学生が入り交じった3部屋に分かれています。院生室を職員室と同じように扱っており、それぞれの部屋で目標を決め、部屋ごとに特色を持たせながら生活しています。授業の時間だけでなく、大学院の教員、そして現職院生が学卒院生の相談にのったり、助言をしたりしていて、とても学びの多い環境です。授業の内容を引き続き部屋で話し、白熱することも多々あります。授業の課題等については、空いている時間を探してみんなで取り組んでいます。自分が興味あることは休みの日にじっくり時間をかけて取り組みます。



教職大学院院生室等配置図





入試日程

※令和2年度の募集要項は、7月上旬ごろ公表予定です。

専門職学位課程、修士課程でそれぞれ募集します。試験はⅠ期、Ⅱ期の2回行います。

	第Ⅰ期募集	第Ⅱ期募集
願書受付	平成30年8月29日(水)～9月5日(水)	平成30年12月7日(金)～12月13日(木) ※学校マネジメントコースは12月18日(火)まで
入学試験	平成30年9月22日(土)	平成30年12月22日(土)
合格発表	平成30年10月16日(火)	平成31年1月22日(火)

教育実践研究報告書のテーマ例

学校マネジメントコース

現職院生のみ

2016 年度

- ・学校組織マネジメント研修の有効性に関する一考察—これからの学校に求められる組織力の構築—
- ・東日本大震災を契機とした自然災害への危機管理に関する一考察—マネジメントの手法を取り入れた安全教育と安全管理—
- ・学校組織マネジメントにおける秋田型評価システムに関する一考察—企業経営理論との対比を通して—
- ・医療的ケアを必要とする子どもが在籍する学校の安全管理の在り方—特別支援学校におけるリスク・マネジメントの観点から—

2017 年度

- ・真正の学びを実現する校内研究体制の在り方—ミドルアップダウン型のカリキュラム・マネジメントを通して—
- ・世代や教科の壁を越えて共に伸びる校内研修の在り方—中学校の授業づくりにおける共同研究体制の構築に向けて—
- ・「桧木内プラン」による特色ある学校づくりの方策—地域連携の核となるミドルリーダーの成長を通して—
- ・高等学校の協働体制の現状と「チーム学校」実現に向けての課題—A大規模進学校の教員意識調査から—
- ・学校・家庭・地域の三者連携のための目標設定の方策—三者の現状把握に基づく課題の明確化をとおして—
- ・特別支援学校が地域と目標を共有し社会に開かれた教育を推進する仕組みづくり—地域連携に取り組む教員と地域住民への意識調査から—

カリキュラム・授業開発コース

現職院生

- ・高等学校「生物基礎」における対話的な学びの実践研究
- ・「カリキュラムマネジメントチェックリスト」を活用した学校改善に関する研究
- ・主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善—実感を伴った理解を図る理科の授業作りを通して—

学卒院生

- ・防災教育において自然現象の二面性（恵みと災害）を取り扱う実践研究—小学校理科単元「流れる水のはたらき」を題材にして—
- ・子どもが「分かった」を感じられる小学校理科の授業づくり—自分自身の変容を実感できる振り返りの一考察—
- ・小学校国語科における対話的な学びの指導に関する研究—秋田の「探究型授業」を切り口として—

教職高度化の新たな頁を開く

秋田大学教職大学院
第1回教職実践オープンリフレクション

今年度開設した教職大学院の教職実践オープンリフレクションを開催いたします。
カリキュラム・授業開発コース及び発達教育・特別支援教育コースは、2会場に分かれて中間発表、学校マネジメントコースは1会場での成果発表を計画しております。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成29年2月23日（木） 10:00～16:30
【場所】秋田大学宇形キャンパス教育文化学部
受付 12:30～13:00 4号館111教室前

【日程】

	内 容	場 所
10:00～12:00	中間発表Ⅰ（学部卒院生）	4-111、5-209
12:00～13:00	昼 食	
(12:00～12:30)	(来年度入学予定者説明会)	(センター207)
(12:00～12:30)	(来年度協力校打合せ会)	(センター203)
13:00～14:15	中間発表Ⅱ（現職院生）	4-111、5-209
14:30～16:10	成果発表Ⅲ（1年コース）	60周年記念ホール
16:15～16:30	閉会行事	60周年記念ホール

【対象者】中間発表Ⅰは秋田大学関係者のみが参加できます。
中間発表Ⅱ以降はどなたでも無料で参加できます。（当日参加可）

【主 催】秋田大学教職大学院
【後 援】秋田県教育委員会 秋田市教育委員会

アクセス
【バス】JR 秋田駅西口から④乗組「宇形山大学南線」または「秋田温泉」行きに乗車
「秋田大学前」下車徒歩1分
【徒歩】JR 秋田駅東口から約15分（約1.3km）
【駐車場】大学正門で守衛の案内に従ってください。会場に限りがありますので、できるだけ公共交通機関の御利用をお願いします。

問い合わせ先：秋田大学 教育学研究科 田 仲 誠 祐
TEL：018-889-2766 E-mail：s-tanaka@gipc.akita-u.ac.jp

- ・ユニバーサルデザインによる中学校古典指導法の研究
- ・「地理的な見方・考え方」を成長させる中学校社会科単元の開発ー深い学びの実現に向けてー
- ・中学校社会科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善ー「持続可能性」に関する生徒の多面的・多角的な考察に基づいてー
- ・中学校音楽科における知覚・感受の言語化を促す研究ー鑑賞領域の授業実践を通してー
- ・中学校数学におけるユニバーサルデザインの視点を活かした授業づくりに関する研究
- ・内言の外言化に着目した秋田県の「探究型授業」に関する研究
- ・中学校図形領域において数学的に考える資質能力を育む授業づくりに関する研究ー数学的な見方・考え方に着目してー

発達教育・特別支援教育コース

現職院生

- ・教科教育と特別支援教育の融合による通常学級における授業改善を目指してー「秋田の探究型授業」とユニバーサルデザインの視点を生かした授業をもとにー
- ・特別支援学校における地域資源を活用した授業実践に関する検討ー教師と生徒へのインタビュー調査からー
- ・病弱教育の充実に向け、特別支援学校が果たす役割ー小中学校への相談支援の実践と事例分析を通してー

学卒院生

- ・知的障害教育における教科の指導の在り方ー生活を豊かにする力の育成を目指してー
- ・「わかる・できる」が実感できる授業改善の一考察ー授業者・子ども・参観者の視点からー

秋田大学教職大学院 発足記念フォーラム
秋田における教育実践知の継承と創造 定員 250名

平成28年4月に秋田大学教職大学院がスタートし、10名の現職教職院生、12名の学部卒業生が学んでいます。教職大学院における取り組みを中心としながら、平成27年12月の教員養成・採用・研修に関する中教審答申を踏まえ、大学院・学部における教員養成と、教育委員会・総合教育センター・学校における教員研修との連携・融合のあり方を探ります。

日時 平成28年 11/11 [金] 14:40~17:00 (1日10開場)

場所 秋田大学60周年記念ホール 秋田県秋田市平学通り1番1号

対象 国・公・私立学校教職員、教育委員会、大学関係者、教員志望学生・院生など

開会挨拶 14:40~

第1部 14:50~15:40
基調講演 14:50~15:40
「教員養成・研修をめぐる国の政策動向」
種島 秋史氏 文部科学省高等教育局大学振興課 教員養成企画室室長補佐

第2部 15:50~17:00
「秋田大学教職大学院の取り組み」
第一報告
独立行政法人教員研修センター主催講習への参加
第二報告
若手大学教職大学院との交流及び若手教員地校訪問
第三報告
授業科目「秋田の授業力の継承と発展」の成果質疑

閉会挨拶 17:00

フォーラム後、大学・教育委員会関係の方には授業の一部公開します。なお、教室の確保上、定員は10名までとなります。
 10:30~12:00
大学院科目「学校危機管理の現状と課題」
 12:50~14:20
学部科目「教職実践演習A」
 (秋田県総合教育センターとの連携による授業です)

【主催】秋田大学教育文化学部・教育学研究科
 【協賛】秋田県教育委員会／秋田市教育委員会
 【問い合わせ先】
 秋田大学教育文化学部総務担当
 〒010-8502 秋田県秋田市平学通り1-1
 TEL 018-889-2503 FAX 018-833-3049
 E-mail: kyoiku@ma.ku-a.ac.jp
 【申し込み方法】
 参加を希望される場合は、11月2日(水)までにE-mail又はFAXにより所定の申込書を送付してください。



この写真は昨年度行われた教職実践オープンリフレクションの様子です。オープンリフレクションは理論と実践を通して1年間研究してきたことを発表する場です。今年度は1期生である2年生が2年間かけて行った研究の集大成となる発表もあります。

各種発行物

○教職大学院通信

年に4回程度発行しています。「暁鐘の音（かねのね）」と称して

- 第1号：2016年 9月 1日発行
- 第2号：2016年11月 7日発行
- 第3号：2017年 1月19日発行
- 第4号：2017年 4月 1日発行
- 第5号：2017年 7月14日発行
- 第6号：2017年11月 1日発行

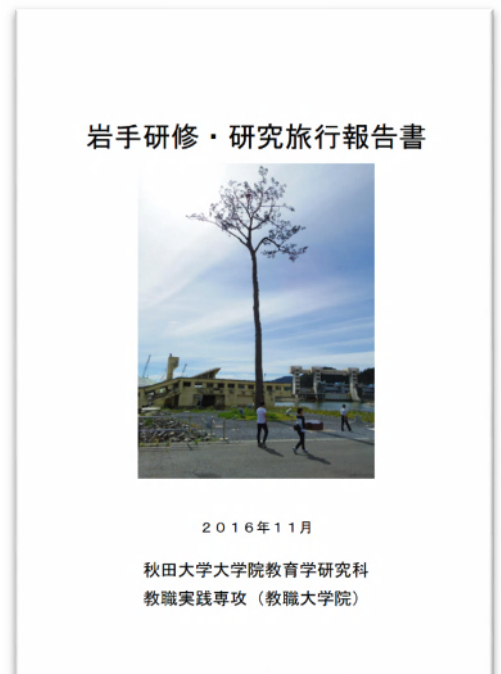
http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html



○報告書等

- ・岩手研修・研究旅行報告書（2016年11月）
- ・秋田大学教職大学院発足記念フォーラム報告書（2017年1月）
- ・秋田大学教職大学院第1回教職実践オープンリフレクション報告書（2017年3月）
- ・2016年度秋田大学教職大学院教育実践研究報告集 第1号（2017年3月）
- ・2017年度学校マネジメントコース修了後計画書／／カリキュラム・授業開発コース／発達教育・特別支援コース教職実践プロジェクトⅡ・教職実践インターンシップⅡ計画書（2017年4月）

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_report.html



入学者の状況

入学 年度	学卒		現職	計	学校マネジメント コース	カリキュラム・ 授業開発コース		発達教育・特別 支援教育コース	
	本学部 出身	他学部 ・大学			現職	学卒	現職	学卒	現職
2016	7	5	10	22	4	10	3	2	3
2017	10	2	11	23	6	11	3	1	2

*教職実践専攻の1学年の定員は20名です。内訳は決まっていますが、おおよそ現職院生10名、学卒院生10名をめどとしています。

修了生の進路

2017年3月は学校マネジメントコースの4名が修了しました。現職院生のみでした。うち3名は教頭に任用されています。

主な行事一覧

(年度により異なります)

4月	入学式 新入生・在学生ガイダンス 前期授業開始 歓迎レセプション 学卒M2実践研究構想発表会 全県指導主事会議	秋田市一斉研修会 スタージュ・オータムキャンプ 象潟巡検 教員免許状更新講習併行授業 附属学校園オープン研修会等
5月	前期実習開始 スタージュ・スプリングキャンプ 秋田県コアティーチャー連絡協議会	12月 日本教職大学院協会研究大会 大学院説明会 忘年会 題目届締め切り
6月	附属学校園公開研究協議会	1月 実践研究報告概要発表会
7月	前期全体リフレクション	小中連携校訪問
8月	納涼会 大学院説明会	第2期大学院入試
9月	後期実習開始 教職員支援機構講習 秋田県コアティーチャー研修会 教員免許状更新講習併行授業 研究研修旅行 第1期大学院入試	2月 報告書・抄録提出締め切り 実践研究報告事前発表会 秋田県総合教育センター教育研究発表会 教職実践オープンリフレクション 模擬授業フェスティバル
10月	後期授業開始 秋田県学力向上フォーラム	3月 あきたの教師力高度化フォーラム 現職M1実践研究構想発表会
11月	あきたの教師力高度化フォーラム	歓送会・「あきた惟路の会」(同窓会) 学位授与式

時間割例

前段は前期、後段は後期：赤は共通科目、緑はコース必修科目、青は実習・省察科目

学校マネジメントコースの現職院生

	月	火	水	木	金
1・2		教職経営プロジェクト			
8:50-10:20			地域教育行財政の理論と実践		
3・4			秋田の授業力の継承と発展		学校教育の現代的課題
10:30-12:00	学校情報の管理と運営			秋田の生涯学習の理論と実践	スクールリーダーの役割と課題
5・6			学校組織文化の形成と機能	インクルーシブの理念と特別支援教育の推進	教員の服務管理と人事考課
12:50-14:20	ふるさと秋田の教育資源とカリキュラム開発				学校危機管理の現状と課題
7・8	学校経営戦略の分析と策定		児童生徒指導の理論と実践	ふるさと秋田における地域課題教育	
14:30-16:00	学校経営をめぐる法と判例			学校・学級経営の現状と課題	
9・10					教職実践 リフレクションⅠ
16:10-17:40					

カリキュラム・授業開発コースの学卒院生

	月	火	水	木	金
1・2		教職実践 インターンシップⅠa			情報教育の教材とカリキュラムの開発
8:50-10:20					
3・4	個のニーズに応じたカリキュラムの編成		秋田の授業力の継承と発展		学校教育の現代的課題
10:30-12:00	国際理解教育の教材とカリキュラムの開発		ふるさと秋田のキャリア教育		
5・6	ICTを活用した教育の実践と課題			インクルーシブの理念と特別支援教育の推進	
12:50-14:20	ふるさと秋田の教育資源とカリキュラム開発		秋田型アクティブラーニングの授業デザインと評価	教育実践力の向上と秋田型共同研究システム	学校危機管理の現状と課題
7・8			児童生徒指導の理論と実践		
14:30-16:00				学校・学級経営の現状と課題	
9・10				小中高連携の教科教育カリキュラムの開発Ⅰ	教職実践 リフレクションⅠ
16:10-17:40				教職実践 リフレクションⅡ	

発達教育・特別支援教育コースの現職院生

	月	火	水	木	金
1・2		教職実践プロジェクト 1b	障害児支援におけるチームアプローチ		
8:50-10:20					
3・4	個のニーズに応じたカリキュラムの編成		秋田の授業力の継承と発展	特別支援教育の教育課程の実施と評価	学校教育の現代的課題
10:30-12:00	コミュニケーション発達の理解と支援		障害児のキャリア発達と支援		子ども理解の理論と実践
5・6	ICTを活用した教育の実践と課題		知的障害児の理解と支援	インクルーシブの理念と特別支援教育の推進	発達障害の事例分析と対応策の検討・評価
12:50-14:20	ふるさと秋田の教育資源とカリキュラム開発			教育実践力の向上と秋田型共同研究システム	学校危機管理の現状と課題
7・8			児童生徒指導の理論と実践		
14:30-16:00				学校・学級経営の現状と課題	
9・10					教職実践 リフレクションⅠ
16:10-17:40				教職実践 リフレクションⅡ	

修士課程と専門職大学院の違い

事項	大学院修士課程	専門職大学院(平成15年4月から)(専門職学位課程)		
			教職大学院	法科大学院(平成16年4月から)
標準修業年限	・2年	・2年又は一年以上2年未満の期間で各大学が定める	・2年又は一年以上2年未満の期間で各大学が定める	・3年
修了要件	・修業年限以上の在学	・修業年限以上の在学	・修業年限以上の在学	・修業年限以上の在学
	・30単位以上の修得	・30単位以上の修得その他の教育課程の履修	・45単位以上(教職経験のみなしあり)	・93単位以上
	・研究指導	・必須としない	・必須としない	・必須としない
	・修士論文審査	・必須としない	・必須としない	・必須としない
第三者評価	—	・各分野毎に継続的な第三者評価を義務付け(5年に1回)	・継続的な第三者評価を義務付け(5年に1回)	・継続的な第三者評価(適格認定)を義務付け(5年に1回)
学位	・「修士(〇〇)」	・修士や博士とは異なる専門職学位 「〇〇修士(専門職)」	・修士や博士とは異なる専門職学位 「教職修士(専門職)」(仮称)	・修士や博士とは異なる専門職学位 「法務博士(専門職)」
教員組織	・教育研究上必要な教員を配置	・教育上必要な教員を配置	・教育上必要な教員を配置	・教育上必要な教員を配置
	・研究指導教員及び研究指導補助教員を一定数以上配置	・高度の教育上の指導能力があると認められる専任教員を一定数以上配置	・高度の教育上の指導能力があると認められる専任教員を一定数以上配置	・高度の教育上の指導能力があると認められる専任教員を一定数以上配置
	・研究指導教員1人当たりの学生収容定員を分野ごとに規定(人文社会科学系は教員1人当たり学生20人以下)	・教員1人当たりの学生収容定員を修士課程の研究指導教員1人当たりの学生収容定員の4分の3として規定(例:人文社会科学系は教員1人当たり学生15人以下)	・教員1人当たりの学生収容定員を修士課程の研究指導教員1人当たりの学生収容定員の4分の3として規定(専任教員1人当たり学生15人以下)	・教員1人当たりの学生収容定員を修士課程の研究指導教員1人当たりの学生収容定員の4分の3として規定(専任教員1人当たり学生15人以下)
具体的な授業方法	・実務家教員の配置規定なし	・必要専任教員中の3割以上を実務家教員	・4割以上	・2割以上
	—	・事例研究、現地調査、双方向・多方向に行われる討論・質疑応答	・事例研究、現地調査、双方向・多方向に行われる討論・質疑応答 ・学校実習及び共通科目を必修	・事例研究、現地調査、双方向・多方向に行われる討論・質疑応答 ・少人数教育を基本(法律基本科目は50人が標準)
施設設備	・教育研究上必要な講義室、研究室等や機械、器具等、また図書等の資料を備える (注)校地・校舎は、借地でも可能なケースあり	・教育研究上必要な講義室、研究室等や機械、器具等、また図書等の資料を備える ・専門職大学院の目的に照らし十分な教育効果をあげることができること	・教育研究上必要な講義室、研究室等や機械、器具等、また図書等の資料を備える ・専門職大学院の目的に照らし十分な教育効果をあげることができること ・実務実習等に必要な連携	・教育研究上必要な講義室、研究室等や機械、器具等、また図書等の資料を備える ・専門職大学院の目的に照らし十分な教育効果をあげることができること ・専門職大学院の目的に照ら